



小杉放菴の自然へのいつくしみ



《猿梨》



《ハクモクレン》



《タゲリ》



《アオケラ》



《ホオノキ》

2010年6月5日(土)～7月19日(月・祝)

休館日：会期中無休

開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

入館料：一般700(630)円、大高生500(450)円、中学生以下は無料

※()内は20名以上の団体割引料金

主催：財団法人 小杉放菴記念日光美術館／日光市／日光市教育委員会／
下野新聞社

〈交通案内〉東武日光駅、JR日光駅から清滝・細尾、中禅寺・湯元、西参道（東照宮）方面行きバス5分、「神橋停留所」
下車、徒歩3分／日光宇都宮道路・日光インターから約2km

〒321-1431 日光市山内 2388-3 TEL.0288-50-1200

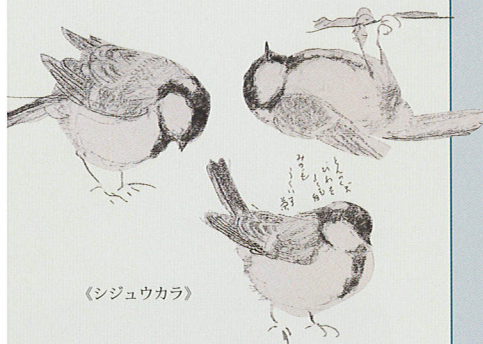
小杉放菴記念日光美術館

自然@美術

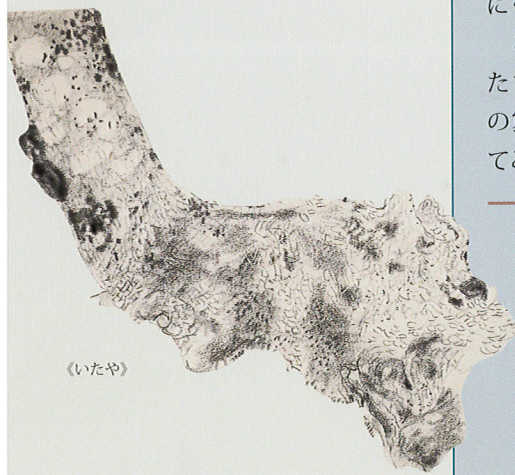
小杉放菴の 自然へのいつくしみ



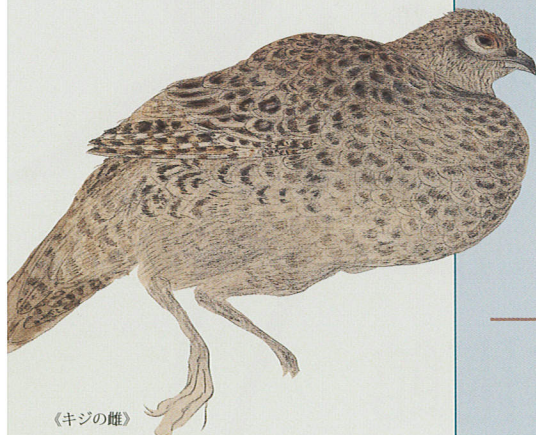
《ジョウビタキ》



《シジュウカラ》



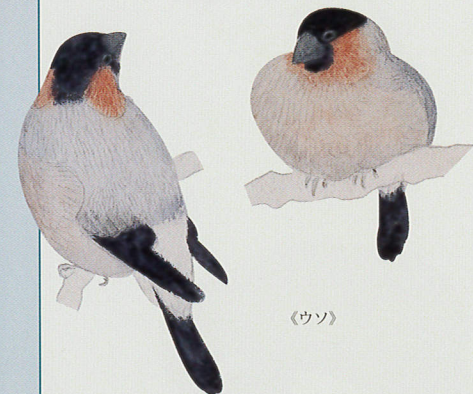
《いたや》



《キジの雌》



《ホオノキ》



《ウソ》



《アカヤシオ》

開館以来、小杉放菴記念日光美術館の所蔵コレクションの中核を担っているのは、1992(平成4)年に、小杉放菴の長男で早稲田大学名誉教授であった故・小杉一雄氏より旧・日光市へ寄贈された、約1200点にもおよぶ「小杉放菴の寫生画」です。

寄贈にあたって小杉一雄氏は、「絵は『絵かき』という木に咲いた花のようなもの」であり、「小杉放菴の寫生画」は「すべて本絵の花鳥画の基盤」であると述べられました。すなわち、小杉放菴という一本の大木に咲いた華麗な花が、あの絢爛で華やかな花鳥画であり、その根にあたるのが「寫生画」ということです。

近年、画家の創造活動の源泉にさかのぼる過程として、スケッチや素描についての一般的な関心が高まっており、「小杉放菴の寫生画」についても、その細部にまで行き届いた観察眼の鋭さやデッサンの正確さ、繊細でありながらメリハリが効いた線描の技術など、美術作品として、第一級の価値をみとめるべきものであると多くの美術関係者たちから評価されてきました。と同時に、その優れたデッサン力は、描かれた動植物の生態についても余すところなく伝えており、日光の地で生まれ育った小杉放菴の自然に対する感覚が、一体、どのようなものであったのかということを理解するための、一つの材料にもなり得るでしょう。

このたびの展覧会では、野鳥や植物などの研究家の方たちに協力をお願いし、当館が所蔵している「小杉放菴の寫生画」について、動植物の生態面から検証を行なってみたいと考えています。

●関連イベント1 特別企画

美術鼎談 「小杉放菴の寫生画」—その魅力を語る

日時：2010年6月19日(土) 午後1時30分～午後3時
場所：小杉放菴記念日光美術館エントランスホール
講師：入江観(画家)
手塚登久夫(彫刻家)
松田道生(野鳥研究家)

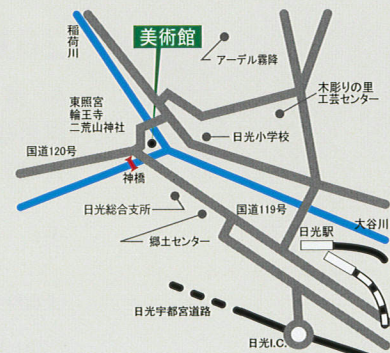
参加料：美術館の入館料のみで参加いただけます。
参加方法：事前の申し込みは必要ありません。
参加を希望される方は、当日の午後1時20分までに、美術館の受付前にお集まりください。

●関連イベント2 特別企画

美術講座 「大人と子どもで楽しむ絵と音楽〜(鳥)とともだち」

日時：2010年6月26日(土) 午後2時～午後4時
場所：小杉放菴記念日光美術館エントランスホールと展示室
講師：宮地ゆみ(ピアニスト)／当館学芸員
参加料：1人300円
定員：30名(申込み先着順)

参加方法：参加を御希望の方は、小杉放菴記念日光美術館まで、お電話でお申し込みください。
☎0288-50-1200



交通案内
東武日光駅、JR日光駅から清滝・細尾・中禅寺・湯元、西参道(東照宮)方面行きバス5分、「神橋停留所」下車、徒歩3分
日光宇都宮道路・日光インターから約2km

小杉放菴記念日光美術館

〒321-1431 栃木県日光市山内 2388-3 ☎0288-50-1200